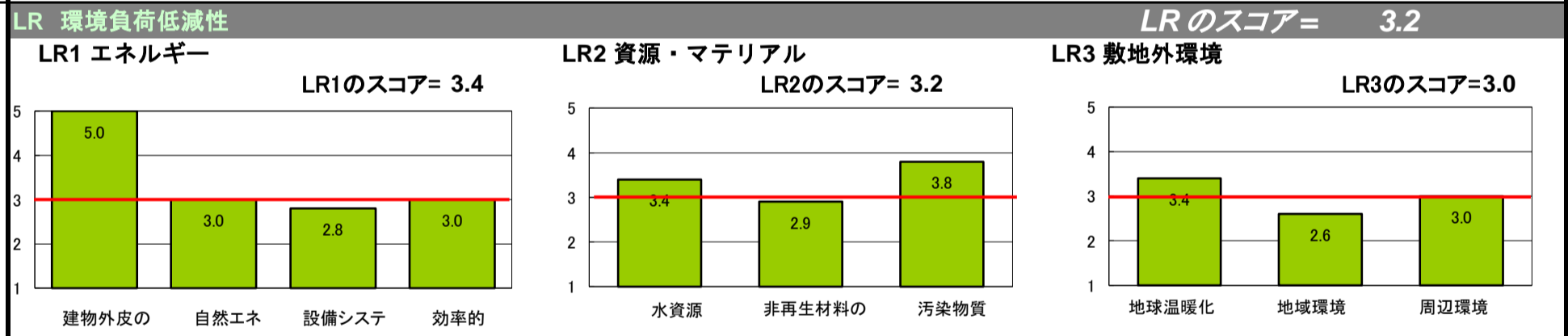
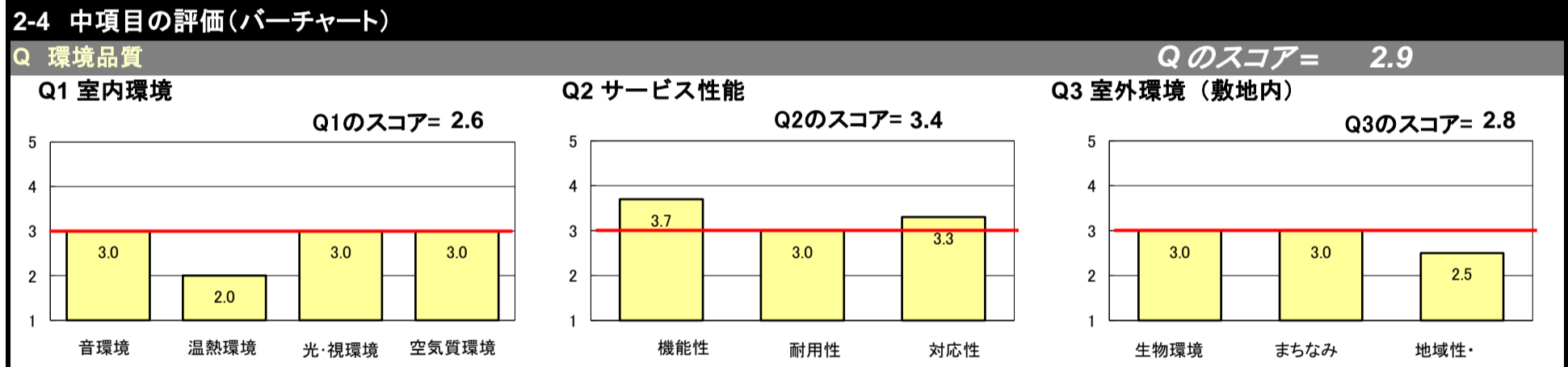
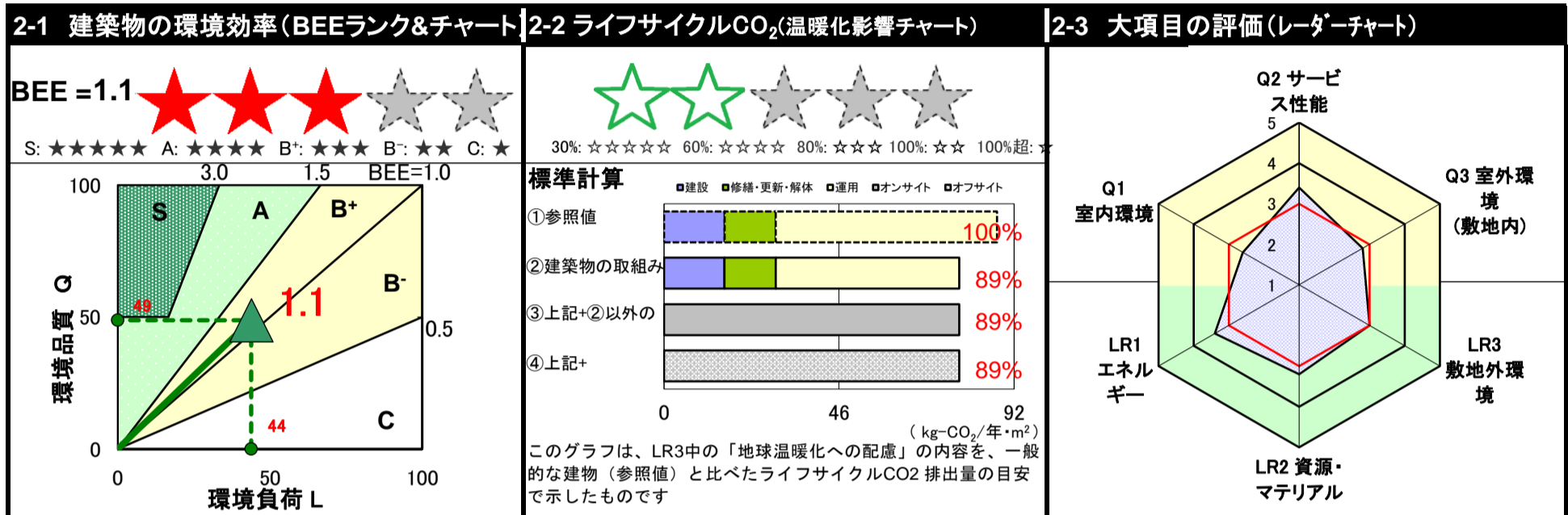


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	鬼頭工業株式会社 新事務棟	階数	地上3F
建設地	愛知県豊田市細谷町二丁目0-3他 11筆、四丁目28他4筆、五丁目5-1 4筆等	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	100人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,000時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年4月 予定	評価の実施日	2019年11月7日
敷地面積	47,658 m ²	作成者	山本陽介
建築面積	4,273 m ²	確認日	2019年11月7日
延床面積	12,134 m ²	確認者	山本陽介



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.4</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>28.6 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.0</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

3 対応性・更新性			0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり		②	0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高が3.9m以上		0.60	-	-	3.0	-
2	空間の形状・自由さ		3.0	3.0	0.40	-	-	3.0	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	3.0	-
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	-
1	空調配管の更新性		-	3.0	0.17	-	-	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.33	-	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI, BPI _m = 0.7		0.27	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI, BEI _m = 0.83		0.37	-	-	-	2.8
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.2
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水型器具の採用		0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1		雨水利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2		雑排水等利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.9	0.63	-	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		独自	3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	3.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.8	0.22	-	-	-	3.8
3.1 有害物質を含まない材料の使用			内装には対象物質を含まない接着剤を利用		0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.3	0.68	-	-	-	
1		消火剤	-	4.0	0.33	-	-	-	
2		発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.33	-	-	-	
3		冷媒	3.0	3.0	0.33	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①	LED照明の採用		0.33	-	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			0.3	2.6	0.33	-	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.5	0.25	-	-	-	
1		雨水排水負荷低減	独自	3.0	0.25	-	-	-	
2		汚水処理負荷抑制	独自	3.0	0.25	-	-	-	
3		交通負荷抑制	独自	5.0	0.25	-	-	-	
4		廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1		騒音	独自	3.0	1.00	-	-	-	
2		振動	独自	-	-	-	-	-	
3		悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1		風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-	
2		砂塵の抑制		3.0	-	-	-	-	
3		日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	-	
2		屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.10	外構緑化:28.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	執務空間の拡張に伴い、室内環境の改善及び設備機器の省エネ化推進
Q1 室内環境	グレア対策としてブラインドによりグレアを制御
Q2 サービス性能	執務空間はOA床としレイアウトの変更に対応できるようになっている。
Q3 室外環境(敷地内)	建築設備に伴う排熱は屋上に室外機を集約することで、建築物の高い位置からの放出に努めている。
LR1 エネルギー	建物で消費される各種エネルギー消費量を年間に渡って把握し、消費原単位を用いてベンチマーク比較を行う。
LR2 資源・マテリアル	水資源確保のため、節水型便器を使用する。
LR3 敷地外環境	光害抑制として広告物照明を使っていない。
その他	